

※解答・解説は右のQRコードから読み取ることができます。

第一回テスト

- (1) 格段 (2) ア (3) イ (4) 比較

※(2) 筆者には大きく感じた月だが、実際の大きさは同じだと言っているので逆接。

- (3) ア、ウは前の漢字が後の漢字をくわしくしている。(鉄の橋、海の底)

「変化」とイは似た意味を表す漢字。エは前が主語、後が述語の関係。(県が立てた)

第二回テスト

- (1) ウ (2) 症状 (3) イ (4) エ

※(1) 副詞…様子・状態・程度を表す。「まるで」「特に」「ゆっくり」など。

第三回テスト

- (1) ア (2) ウ (3) 過度 (4) ウ

※(1) ①とアは連体詞、イは形容詞、ウは副詞、エは形容動詞

連体詞…体言(名詞)を修飾して意味を詳しくする語。「あの」「この」「大きな」「いわゆる」など。

- (2) 前に述べてある内容に対する結果が後に述べられているので、ウ。

- (4) ア、世界一とは書いていない。イ、必ずの部分で誤っている。

第四回テスト

- (1) ①.超(える) ②.予測 (2) すばらしい (3) イ (4) 日本は四季

※(2) 形容詞は、終止形が「い」で終わる。「美しい」「うれしい」など。

- (3) ア「さて」「ところで」などの、話題を変えるための接続詞。

イ「しかし」「けれども」「ところが」などの、逆の内容をあとに述べるための接続詞。

ウ「そうして」「だから」などの、前の事柄を理由として、その結果をあとに述べるための接続詞。

エ「一方」「反対に」などの、前後の事柄を比較・対比するための接続詞。

第五回テスト

- (1) ②.寝 ③.罪 (2) ウ (3) イ (4) 頭

※(2) アとイは推定の助動詞。ウは伝聞の助動詞。

- (3) 「あげ足を取る」相手の失言などをとらえて、からかったりなじったりする。

「胸騒ぎがする」心配や悪い予感のために、胸がどきどきすること。

「後ろめたい」心にやましいことがあり、気がとがめる。

第六回テスト

- (1) ウ (2) ア (3) ウ

※(1) 「私の血洗いが不合格だったのだと気づいた」と「伝えづらそうにしている」からウ。

- (2) おろおろ…どうしたらよいかわからず、落ち着きなくとまどっている様子。

第七回テスト

- (1) 工夫 (2) エ (3) 本棚の整理が行き届いていたから。かなりの記憶力があったから。

第八回テスト

- (1) ①.とど ③.とら (2) 活用の種類：五段活用 活用形：連体形
(3) スポーツ選手としての心得 (4) ウ

※(2)「止まる」にナイをつけると「止まらナイ」となり、ナイの前の音がア段なので五段活用。
「止まること」と「こと」に続いているので連体形。

第九回テスト

- (1) エ (2) エ (3) ア (4) ウ

※(2)「～する」はサ行変格活用(「する」「～する」の形のみ)「来る」はカ行変格活用(「来る」のみ)
「食べる」は食べナイで、ナイの前の音がエ段なので下一段活用
「伸びる」は伸びナイで、ナイの前の音がイ段なので上一段活用
(4) 前に述べた長い内容を短い言葉でわかりやすく言っているので、簡略の接続詞。

第十回テスト

- (1)②.黙(る) ③.隠(す) (2) イ (3) ウ

第十一回テスト

- (1) ア (2) エ (3) イ

※(1)「^①れる」、アは「受け身」イ、エは「可能」ウは「尊敬」

(2) 男の子がおばさんに怒られると思っていたが、そうではなかったので逆接。

第十二回テスト

- (1) ウ (2) エ (3) 欧米諸国ではリサイクルの概念に焼却を含まないから。 (4) イ

※(1) アは「もの(こと)」に置き換えられる。イ、エは「が」に置き換えられる。

(2) 「発生する」はあとに名詞が来ているのでサ行変格活用の連体形。アは下一段活用の終止形。
イは下一段活用の連用形。ウは五段活用の命令形。エは上一段活用の連体形。

第十三回テスト

- (1) ①.ようよう ②.なお (2) 明け方(夜明け) (3) ア (4) 蛍 (5) 清少納言^{せいしょうなごん}
(意訳)

春は明け方(がいい)。だんだんと白んでいく、山ぎわの空が、少し明るくなって紫がかった雲が細くたなびいている(のがいい)。

夏は夜(がいい)。月の出ている頃は言うまでもない。闇(月がないとき)もやはり(いい)。蛍が多く飛びかっている(のがいい)。また、ほんの一、二匹ほのかに光って飛んでいくのも趣がある。雨が降っているときも趣がある。

第十四回テスト

- (1) 問一 あわれなり 問二 イ (2) ア (3) エ

(意識)

秋は夕暮れ(がいい)。夕日が差して山の端にとても近づいたところに、鳥が巢に帰ろうとして、三、四羽、二、三羽と、飛びいそいでいる様子がしみじみとしたものを感じさせる。まして雁などが列をつくって飛んでいる様子がとても小さく見えるのはたいへん趣深い。日が沈んでしまって、風の音、虫の音など(がするの)、これもまた言うまでもない(ほど趣深い)。

冬は早朝(がいい)。雪が降っているのは言うまでもない。霜が真っ白なもの、またそうでなくても、とても寒いときに、火などをおこして、炭を持って(廊下などを)通っていくのも(冬の朝に)たいへん似つかわしい。昼になって、(寒さが)だんだんゆるんでくると、火桶の火も(ついほったらかして)白い灰になって(しまっているのは)、良くない(好ましくない)。

第十五回テスト

- (1) ア (2) エ (3) イ (4) ①.吉野山 ②.花(桜の花)

※(1)「海恋し」が形容詞の終止形で言い切っていることから、初句切れ。

(2) 短歌の末尾を体言(名詞)で止めて余韻を持たせている。

(Aの意識)

故郷の海が恋しい。遠くから聞こえてくる波の音を数えては、少女へと育てていった懐かしいあの父母の家よ。

第十六回テスト

- (1) ①.尊敬語 ②.謙讓語 (2) ①.召しあがる ②.おっしゃった
 (3) ①.伺う(承る) ②.いただいた (4) ①.ア ②.イ

※(2)①「食べる」の謙讓語は「いただく」 ②「言う」の謙讓語は「申す、申しあげる」

第十七回テスト

- (1) ㉔.あらわす ㉕.ひとえに (2) 七五調 (3) 盛者必衰の理をあらはす (4) ア

※(2) 祇園精舎の(七音) 鐘の声(五音) 諸行無常の(七音) 響きあり(五音)

(3) 「祇園精舎の鐘の声」と「沙羅双樹の花の色」は対句表現。

(意識)

祇園精舎の鐘の音は、諸行無常の響きがある。沙羅双樹の花の色は、栄えるものの必ず滅びゆく道理を告げる。おごり高ぶっている人の運命は、春の夜の夢のようにはかない。武に強い人の身の上も結局は滅亡してしまう。まったく風に吹き飛ぶ塵のようなものだ。

第十八回テスト

- (1) ウ (2) 右に記載 (3) ウ (4) 煙花三月揚州に下る (5) 倒置法 (2)

※(3) 故人は孟浩然のこと。

桜(Lou), 州(Syuu), 流(Ryuu) が日本語の読みで一定のリズムになっている。

このことを押韻おうえんという。

(意識)

古くからの親友(孟浩然)が、西の方にある黄鶴楼に別れを告げ、花がすみたって咲いている三月に揚州へと下っていくのだ。帆をはった船がだんだんと青空にすいこまれ(るようにちいさくなっていき)、そのうちただ揚子江が空の果てに向かって流れているのを見ているだけである。

故人
西ノカタ
二 辞シ
黄鶴楼
一 ヲ

第十九回テスト

- (1) 衆鳥高く飛びて尽き (2) 右に記載 (3) ア (4) 対句ついく (2)

※ (3) 絶句は四句 律詩は八句

(意識)

たくさんの鳥は空高く飛んで、いなくなってしまい、ひとかけらの雲も流れ去って、あとはひっそりと静かになった。お互いが見つめ合い、ともに見飽きることがないのは、ただ悠然とした敬亭山だけだ。

只ダ
二 有ルノミ
敬亭山
一 ヲ

第二十回テスト

(例)

スマートフォンを持つことのメリットは、部活動や塾の送迎時に、親と連絡をとりやすいことです。一方で、デメリットは、SNSやゲームに夢中になり、勉強や睡眠の時間が減ってしまうことです。そのため、私は自分でルールを決めて使用したいと思います。例えば、ゲームの時間を決める、夜九時以降は通知を切るなどです。このように、自分で決めたルールを守ることが、スマートフォンと上手に付き合う方法だと思います。